

三體千字文

千字文講義

容若思。言辭安定。	トクショジヤクシトコトハ言はれどもふがごとく。かたちだしきを思ふ。ことばは、おもふがごとく。かたちだしきを思ふ。されど思ふばかりではならぬ。其の思ふが如く端正優美なるにあつては、決して軽薄ならぬやうにせよといへるなり。
學優登仕。攝職從政。	ガクイウトシ。セツショクツンジ。行いを正しくして、終りを慎みて、鄭重にするときは、其の初めの結果が善良なるべしといへるなり。
榮業所基。慎終宜令。	エイギョウキ。シンシユウギ。行いを正しくして、終りを慎みて、鄭重にするときは、其の初めの結果が善良なるべしといへるなり。
學優登仕。攝職從政。	ガクイウトシ。セツショクツンジ。行いを正しくして、終りを慎みて、鄭重にするときは、其の初めの結果が善良なるべしといへるなり。
存以甘棠。去而益詠。	ソンイカンタウ。キヨシエイヨウ。この召公が如く、又死して後を聽き、甘棠篇の甘棠勿伐の句の如く、益その徳を謳歌せらるべきなり。
樂殊貴賤。禮別尊卑。	ガクシユキ。ソントク。ソントク。ソントク。天下平らかに國家よく治まり、人君は臣民を愛くし、みあはれみ、臣民は君主を尊み敬ひて上下和らぎ睦し、女子は能く服従して和合するをいふ。
上和下睦。夫婦隨。	ジャウワカボク。フシヤウボク。ソニカシキ。カシキ。夫婦は、天子より音楽には、天子、諸侯、士大夫、庶民と種々の高位高官に昇り得らるべしといへるなり。
外受傳訓。入奉唱。	グワイジユツク。クン。ソニカシキ。カシキ。父の姉妹を姑伯叔といひ、父の兄弟を伯叔、乃ち「をち」といふ、「父の兄弟を伯叔、乃ち「をち」といふ、父の兄弟を伯叔といひ、「をち」を「をば」のことなり、又「をば」とは、兄弟の子をいふ、兄弟の子は猶子の如しといふより、すべての「をひ」「めひ」をいふ、「をひ」と「めひ」は猶ほわが子の如くに愛くしめといふなり。
諸姞伯叔。猶子比兒。	ショコハクシユク。シジ。ソニカシキ。カシキ。父の姉妹を姑伯叔といひ、「をち」といふ、すべての「をち」を「をば」のことなり、又「をば」とは、兄弟の子をいふ、兄弟の子は猶子の如しといふより、すべての「をひ」「めひ」をいふ、「をひ」と「めひ」は猶ほわが子の如くに愛くしめといふなり。
都堅持雅操。邑真志滿。	トケンイフカ。カカ。シテ。カ。セイシンシ。マント。性情逸。
華夏。好爵自靡。	クワカ。ソウコラ。ヨウシャクジ。モリ。
洛浮渭據涇。	ラク。トウ。ザイ。ケイ。
背邙面洛。浮渭據涇。	ハイバウ。カ。ラク。トウ。ザイ。ケイ。
東陽與京。	トウヨウイケイ。
東陽與京。	トウヨウイケイ。

晋	楚	更	霸	秦	魏	困	横	
晋之是 楚是 更 霸。	楚 晋 更 霸。	晋 楚 更 霸。	晋 楚 更 霸。	秦 晋 更 霸。	魏 晋 更 霸。	秦 晋 更 霸。	魏 晋 更 霸。	
天下乱るるに及んでは、人道漸く衰へ、天下は在れ どもなきが如く、又彼と魏は合の両国が、かはるがはる も、反て秦の連横の計に苦しめを譲じたり。秦に抗せし てうぎは、わうにやむ。	晋の獻公の如きは處の國を征すとて、道を號の國に 來り、秦の苟法を除きて法を三章に約してこれを輔佐し て、秦の苟法を除め、其の後は國はつかれられた。	晋の高祖が天下を定めし時は、蕭何してこれを輔佐し て、秦の苟法を除め、其の後は國はつかれられた。	晋の文公は將士に帰るとき、遂に號を亡ぼして、天又 子を敬ひ朝貢を怠らざらんことを盟ひしも、終に行は れざりしなり。	晋の高祖が天下を定めし時は、蕭何してこれを輔佐し て、秦の苟法を除め、其の後は國はつかれられた。	晋の高祖が天下を定めし時は、蕭何してこれを輔佐し て、秦の苟法を除め、其の後は國はつかれられた。	晋の高祖が天下を定めし時は、蕭何してこれを輔佐し て、秦の苟法を除め、其の後は國はつかれられた。	晋の高祖が天下を定めし時は、蕭何してこれを輔佐し て、秦の苟法を除め、其の後は國はつかれられた。	
名野名 なり。	昆池とは、昆明と称する有名なる池に於ける所の湖石は原著 山なり、又洞庭は楚の國と吳の國との間にある所の湖石は原著	鴈門は山なり、乃ち山は恒山と岱山とをたつとぶ、又雞田とは古駅の名にして、赤城は周時代に称 下八句は中國古代の地理形勢を示したるなり。	嶽 宗 禹 跡。 百 主 郡 云 秦 丹 青 并	九州 威 沙 漠 馳 用 最 精	宣 威 沙 漠 馳 用 最 精	起 翦 頗 牧 用 革 最 精	何 遵 約 法 韓 弊 煩 刑	
山なり、又洞庭は楚の國と吳の國との間にある所の湖石は原著	山なり、又洞庭は楚の國と吳の國との間にある所の湖石は原著	山なり、又洞庭は楚の國と吳の國との間にある所の湖石は原著	九 州 禹 跡。 百 主 郡 云 秦 丹 青 并	宣 威 沙 漠 馳 用 最 精	起 翦 頗 牧 用 革 最 精	何 遵 約 法 韓 弊 煩 刑	晋の高祖が天下を定めし時は、蕭何してこれを輔佐し て、秦の苟法を除め、其の後は國はつかれられた。	
省躬	貽嘉	聆察	孟軻	稅熟	叔敖	治本	曠遠	
躬誠	幾獸	理貌	荷敦	貢新	載南	對於農	縣縣	
龍增	勉其	謙謹	庸素	觀賞	歎	務茲	岫	
抗極	植色	秉直	魚黜	黜陟	我稼	稼穡	冥	
むの意 ること みを あらそ ひいた る	自らかへり みて過ち なきや 君の寵 増すと きは他 物とに注 められ て無美 の殆を蒙	忠孝一家を経営するの計画を子孫にのこし、又常に仁義 なり、道を守り、勉めて身を立てることを立つことなり。	その音声を聞きてそのすぢみちを察し知り、又その 容貌を見て喜怒哀樂の情を弁別するなり、乃ち何事に り。注意を怠らずして、是非善惡を見分けよとの意なり。	中とはかたよらぬこと、庸とは常にしてかはらぬこと なり。孝の道を守り、勉めめて身を立てることを立つこと なり。注意を怠らずして、是非善惡を見分けよとの意なり。	軻は世に名高き賢人孟子の名なり、孟軻乃ち孟子は その性質厚くして少しあはなる人であり、孟軻乃ち孟子は 以家の務めなり、されば上はその業を勧め励ますに賞を 以てし、その勤怠によりて或は位をさづけ又はしりぞ くるなり。	叔軻は始めてその穀物が実り熟したならば、その幾分を租税 として納め、その新しきを貢として奉ること、これ農業 にして、その勤怠によりて或は位をさづけ又はしりぞ くるなり。	叔軻は始めてその穀物が実り熟したならば、その幾分を租税 として納め、その新しきを貢として奉ること、これ農業 にして、その勤怠によりて或は位をさづけ又はしりぞ くるなり。	叔軻は始めてその穀物が実り熟したならば、その幾分を租税 として納め、その新しきを貢として奉ること、これ農業 にして、その勤怠によりて或は位をさづけ又はしりぞ くるなり。

活筆	てんがでりんがかみ。紙。	活筆	てんがでりんがかみ。紙。	射遼丸。	しやれうがぐわん。	射遼丸。	しやれうがぐわん。	賊盜。	ゾクさん。	賊盜。	ゾクさん。	稽頬。	サウ。	稽頬。	サウ。	嫡後。	コウ。	嫡後。	コウ。	矯手。	ショ。	矯手。	ショ。
伦巧任釣。	りんがかみ。巧任釣。	伦巧任釣。	りんがかみ。巧任釣。	琴阮。	キンゲン。	琴阮。	キンゲン。	阮。	ゲン。	阮。	ゲン。	稽頬。	サウ。	稽頬。	サウ。	嫡后。	コウ。	嫡后。	コウ。	矯手。	ショ。	矯手。	ショ。
何紙又任天公名高人。	紙を作り、馬鈞は、創めて筆を作り、漢の蔡倫は創めて宣紙を作り、馬鈞といひへる人は魚を釣るに妙を得たり。以上は宣能くせり。	何紙又任天公名高人。	紙を作り、馬鈞は、創めて筆を作り、漢の蔡倫は創めて宣紙を作り、馬鈞といひへる人は魚を釣るに妙を得たり。以上は宣能くせり。	布遼遠丸。	ブレウ。	布遼遠丸。	ブレウ。	誅斬。	ザン。	誅斬。	ザン。	稽頬。	サウ。	稽頬。	サウ。	嫡后。	コウ。	嫡后。	コウ。	矯手。	ショ。	矯手。	ショ。
活筆。	てんがでりんがかみ。紙。	活筆。	てんがでりんがかみ。紙。	射遼丸。	しやれうがぐわん。	射遼丸。	しやれうがぐわん。	賊盜。	ゾクさん。	賊盜。	ゾクさん。	稽頬。	サウ。	稽頬。	サウ。	嫡后。	コウ。	嫡后。	コウ。	矯手。	ショ。	矯手。	ショ。
謂二語助者。	こじよといふものは、者。	謂二語助者。	こじよといふものは、者。	孤陋寡聞。	コロウ。	孤陋寡聞。	コロウ。	愚蒙。	モウ。	愚蒙。	モウ。	稽頬。	サウ。	稽頬。	サウ。	年矢。	ホン。	年矢。	ホン。	毛施。	モウシ。	毛施。	モウシ。
焉哉乎也。	エシカ哉ナヤ。	焉哉乎也。	エシカ哉ナヤ。	孤陋寡聞。	コロウ。	孤陋寡聞。	コロウ。	愚蒙。	モウ。	愚蒙。	モウ。	稽頬。	サウ。	稽頬。	サウ。	年矢。	ホン。	年矢。	ホン。	施。	モウシ。	施。	モウシ。
謂二語助者。	こじよといふものは、者。	謂二語助者。	こじよといふものは、者。	孤陋寡聞。	コロウ。	孤陋寡聞。	コロウ。	愚蒙。	モウ。	愚蒙。	モウ。	稽頬。	サウ。	稽頬。	サウ。	年矢。	ホン。	年矢。	ホン。	施。	モウシ。	施。	モウシ。
謂二語助者。	こじよといふものは、者。	謂二語助者。	こじよといふものは、者。	孤陋寡聞。	コロウ。	孤陋寡聞。	コロウ。	愚蒙。	モウ。	愚蒙。	モウ。	稽頬。	サウ。	稽頬。	サウ。	年矢。	ホン。	年矢。	ホン。	施。	モウシ。	施。	モウシ。